



乳幼児ふれあい体験



11月13日（月）2・3校時、乳幼児とその保護者22組を招待して、本校セミナーハウスで1学年の全生徒が交流学习を実施しました。これは①子育て中の母親との意見交換をしたり、乳幼児とふれ合ったりすることで、親の役割の重要性を認識させるとともに、子に対する愛着心を養う。②保育に関する基礎的な知識・技術を定着させ、心身共に健康な子供を育てることのできる能力と実践的態度を育てる。という目的で、西海市子ども課、チームE G A Oさんとの共催で実施しました。当日は首が座っていない2ヶ月のお子さんから5歳のお子さんまで25名の乳幼児の皆さんとの交流ができました。

<交流タイム>

生徒5～6人のグループに2・3組の親子さんというグループ10班で、事前に準備していた質問（子育てに対するやりがいを感じる時、など基本質問5つと各班独自の質問「子供の名前の付け方」「由来」「虐待について」など）をお母さんたちに聞きながら「トムテ」さんの玩具を使用して遊んだり、抱っこやおむつ替えの体験をしました。初めは「首が座っていないから怖い」「泣かれた～」などの声もありましたが時間が経過するにつれて積極的な活動に変わっていきました。

*「トムテ」さんは長崎市内のおもちゃ貸し出しを通じた支援サークル

<ワークショップ>

妊婦体験グッズを着用したり、質問の回答や、将来どんな大人・親になりたいか、交流学习の感想などを模造紙にまとめ各班で発表しました。

事前アンケートの中には将来の子育てに「不安」「大変そう」「したくない」などの意見もありましたが、発表の中にある感想や将来の親・大人像として「見本になれる大人」「子供を導く力が必要」など期待以上の言葉がありました。生徒たちが皆笑顔でイキイキとした表情でした。

